

入賞

一般建築物の部

建築主：鋸南町

設計：N.A.S.A.設計共同体

施工：東海建設株式会社 鋸南支店

所在地：安房郡鋸南町保田724

(architecture WORKSHOP  
空間研究所 (株)設計組織ADH)  
NASCA

既存の校舎を最大限活用

鋸南町都市交流施設・道の駅 ほた 保田小学校

廃校となった町立保田小学校を新たなコミュニティの核となる拠点として再生し、地方の活性化、都市と農山漁村の新たな交流拠点を目指し、平成27年12月にオープンした。廃校を活用して既存の校舎や備品をできるだけ活用し、教室などを当時の面影を残しながら改修し、平時には宿泊室として使用し、緊急時には避難所へと使用方法を変化させるなど、小学校時代から町の広域避難所であったという機能を引継いで、施設を多面的に活用できるように設計されている。空調に頼らない環境制御機能を導入して、宿泊室の断熱性能を向上したり、空調コスト低減を図るような先進の試みがされている。

廃校となった町立保田小学校の既存の校舎を最大限活用している。旧体育館の外壁を撤去し、自然光を透過する半透明のポリカーボネイトを外壁として使用し、温室を思わせる南房総の農村風景に溶け込む外観となっている。日中は自然光が内部を明るくし、夜間は内部照明が外を照らし存在感を出している。

宿泊室は旧教室を2分割し、当時の黒板やロッカー、学習机など当時の面影を残すようにされている。校舎全面に「まちの縁側」を増築し、外気とのバッファゾーンを形成している。

(圓崎 直之)



はらっぱ広場より見る



既存校舎南側に新設された縁側

(撮影/浅川 敏)

9

入賞

一般建築物の部

建築主：学校法人 暁星国際学園

設計：芦原太郎建築事務所

施工：スターツCAM株式会社

所在地：流山市前平井175-2

流山市から世界へ「新しい都市型駅前小学校」の提案

## 暁星国際流山小学校

敷地はつくばエクスプレス開通にあわせ区画整理が行われた流山市所有駅前市有地である。市との「流山から世界へ」という共通スローガンのもと「国際感覚を兼ね備え新時代に活躍する人材の育成」に相応しい建築空間を目指している。

昇降口は「流山セントラルパーク駅」から、高架下脇の道約100m。エントランス広場は落ち着いた清楚な雰囲気で一息つくのにほど良いスペースだ。昇降口の先に運動場が広がる。

教室は螺旋階段を中心としたメディアセンター(図書館+ICT)が核となり、特別教室の複数使用や可動型什器の採用により、使用率を高める工夫を行っている。インテリアは温かみのある木質系材料とベージュ系を中心に、アクセントカラーを使う。極力既製品は使わない、デザインする姿勢が感じられた。コストに配慮し、室によりグレードとディテールを使い分けながらも極端に見えない工夫があり、好感が持てた。

現在在校生は1・2年生のみの約60名。6年生まで揃ったとき校内のあちこちで新たなストーリーが展開されるだろう。昇降口前の高架下もこれから一体的な整備が始まるそうだ。学校と道路を挟んだ総合運動公園との連携も考えられる。駅と市と小学校の成長と未来に期待が膨らむ。

(藤本 香)



誰もが立ち寄りたくなるような開かれたエントランス



ICTと融合した新感覚の図書館

(撮影/雁光舎 野田 東徳)